

言葉と図に着目し、文章構成を捉え、要旨を読み取る力の育成

新潟市立新潟小学校
教諭 畑 智

1 問題の所在

PISA調査(2003)の結果が公表された。その中で、「数学的リテラシー」、「科学的リテラシー」、「問題解決能力」については、1位の国との統計上の差はなかったが、「読解力」の得点については、OECD平均程度まで低下していることが課題として示された。

具体的には、次のような内容の問題に課題があるとされている。

- | |
|--------------------------------|
| ア テキストの表現の仕方に着目する問題 |
| イ テキストを評価しながら読むことを必要とする問題 |
| ウ テキストに基づいて自分の考えや理由を述べる問題 |
| エ テキストから読み取ったことを再構成する問題 |
| オ 科学的な文章を読んだり、図やグラフをみて答えたりする問題 |
- (「読解力向上に関する指導資料」 文科省 H17.12)

では、どのように改善すればよいか。文科省は、改善の具体的な方向として次のような方向を示した。

- | |
|--|
| ①テキストを理解・評価しながら読む力を高めること |
| ②テキストに基づいて自分の考えを書く力を高めること |
| ③様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会を充実すること。 |
- (「読解力向上に関する指導資料」 文科省 H17.12)

ここで、私は、「課題オ」及び「改善の方向③」に着目する。

PISA調査の読解力の問題の特徴として、「連続型テキスト(物語、解説、記録など、文と段落で構成されたもの)」と「非連続型テキスト(図、グラフ、表など、データを視覚的に表現したもの)」で問題が構成されている。その中で、様々な情報を読み取り、解釈し、様々な方法で表現する力が求められている。

これまでの私の指導を振り返ると、「連続型テキスト」を中心とした読解に重点を置いていた。国語科の学習であれば、言葉に着目し、それを中心に読み取っていくのは当然である。しかし、言葉と言葉を関連付けて読み取るだけでは、「非連続型テキスト」と関連させて読み取る力を養うには到っていないのではないかと。

具体的に言えば、教科書教材に掲載されている図や挿絵などの扱いである。これまでも補助資料として掲載されている図や挿絵など、文章を読み取る過程で子供たちに押さえてはきた。しかし、全体での検討の場においてである。個別に図の内容と言葉と関連させたり、整合性を確かめたりといった学習ではなかった。ここに私の授業の問題の所在がある。

そこで、子供一人一人が、言葉と図や挿絵を意図的に関連させて文章を読み取る学習を単元に位置づける必要があると考える。そうすることにより、「非連続型テキスト」と関連させて読み取る力を養うことができると考えた。

本実践では、以下のように指導の改善を図り、次の子供の姿を目指す。

<p style="text-align: center;">高学年の説明的文章において</p> <p style="text-align: center;">言葉に着目し、文章構成を捉え、要旨を読み取る。(これまでの私の授業)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">言葉と図に着目し、文章構成を捉え、要旨を読み取る。(本単元で提案する私の授業)</p>

2 単元名 要旨をとらえよう (「サクラソウとトラマルハナバチ」・光村5年上)

3 単元の目標

- 文章構成をつかみ、要旨を読み取ることができる。
- 筆者の主張に対して、自分の意見を持ち、文章に表すことができる。

4 本単元で育てたい思考スキルと学習スキル

本単元で育てたい思考スキルと学習スキルは、以下のとおりである。

思考スキル…文章や図の意図や表現に対して、意見をもって読み進めること。
学習スキル…文章構成を手掛かりに、要旨を読み取ること。

これらは、今年度当校で学力向上のために付けたいスキルとして、国語部から提案されたものの一部である。その中で、本単元に位置づけられるものを取り上げている。

5 指導計画 (全7時間)

- 第1次 (1時間) …通読・語句、新出漢字の確認
- 第2次 (4時間) …話題提示の文を押さえ、文章構成をつかむ。
 - 一つ目の問題について、読み取る。
 - 二つ目の問題について、読み取る。
 - 要旨をとらえる。
- 第3次 (2時間) …筆者の主張に対する、自分の意見をもつ。

6 実践の概要

本単元第2次、3時間目を中心に以下のように働き掛けを行った。

働き掛け1 問いの文と答えの文とを対応させて問う。

説明的文章は、主に問いと答え、そして、具体的な事例とからできている。本時では、まず、問いの文とそれに対応する答えの段落に着目させた。

まず、7段落から問いの文「トラマルハナバチは、なぜいなくなったのでしょうか。」を見つけさせた。問いの文の見つけ方については、1段落で学習済みである。見つけられない子供には、文末に「か」を加え、疑問型になる文を探させた。

次に答えの段落を問うた。答えの段落は、9段落である。さらに、答えの文を確認した。ここで、7段落(問い)と9段落(答え)との間にある8段落には、どのようなことが書かれているか、目を向けさせるつもりであった。

しかし、答えの文を見付けるところで、子供たちの意見が分かれた。8段落にある、「このように」から始まる文と、「サクラソウ」から始まる文とで分かれたのである。ここでは、「このように」から始まる文は、次の「また」から始まる文と共に、具体的な事例を説明している。それを受けて、8段落のまとめの文として、「サクラソウ」から始まる文につながる。この「サクラソウ」から始まる文を答えの文として、落ち着かせたかったが、設定した時間では、検討するに不十分であった。本時ではなく、前時に1単位時間を使って検討させることが妥当であったと思われる。

働き掛け2 トラマルハナバチの1年を、図と文とを対応させて読み取らせる。

教材文には、8段落でトラマルハナバチの1年についての説明が詳細に書かれている。しかし、8段落は、上段だけとはいえ、およそ2ページに渡る長い段落である。言葉だけから正確に読み取るには、一つ一つ丁寧

に押さえていかなければならない。そのためか、教材文には、トラマルハナバチの1年について、図でも示されている。

ここで、図を書いたワークシートに、コピーした本文から文を切り取って貼っていく活動を組んだ。

言葉だけの読み取りでなく、図と文とを対応させて読み取らせたのである。これは、「文章や図の意図や表現に対して、意見をもって読み進める」という思考スキルを身につけさせる。

図は、書かれている文を要約してかかれている。どの図とどの文とが対応するか問うことによって、書かれている事柄を丹念に読む必要が生まれた。また、一文と一図とが必ずしも対応しているわけではない。対応していない文は、図のどの位置に貼ればよいか、言葉と図の読み取りを全体で検討する必要も生まれ、子供たちは、活動に意欲的に取り組むことができた。



コピーした8段落の文章を図に合わせて切り取る。



図に合わせて、切り取った文を貼っていく。

働き掛け3 トラマルハナバチがいなくなったひみつを、図と文とで示させる。

図と文とを対応させた後に、答えの段落は、図と文のどの箇所を根拠に言っているのか問うた。

ここで、答えの段落に記されているトラマルハナバチの生存条件が、なぜ脅かされているか、そのひみつを図と文とで確認し、10段落のまとめへと意識を向かせたと思った。

しかし、前節の作業時間が伸びたために、検討する時間は、不十分なものとなった。時間設定と子供の実態把握に課題が残る結果となった。



図と文のどの箇所を根拠としているかを述べる。

7 成果と課題

〈成果〉

本実践では、教科書に掲載されている図と8段落の文章とを対応させた。その中で、子供たちは、一文一文丁寧に読み取り、図に対応する文を図に貼り付けていった。

また、図に表されていない文章をどこに貼り付けるかについて、図の中から矢印や絵などを手掛かりにし、当てはまる場所を推測して貼り付けることができた。

この文を貼り付けるという活動をする中で、子どもたちは、図と文とを行き来し、時系列として内容を読み取ることができた。単に文章のみを読み取りに生かすのではなく、他の情報（今回は図）も含めて、総合的に読むことができたと考える。

さらに、PISA型読解力の育成を視野に入れた場合、新たな資料を用意して授業に臨みがちである。しかし、教科書教材を活用することでも、授業を構成することができるという手応えをつかむことができた。

〈課題〉

図に文を貼る活動の際、子供がどう解釈して文を貼ったのか、図の中身についても検討する場を設定する必要がある。例えば次のような活動を加えるべきであった。

- ・ 図に示されていないことを表した文をどこに貼ったか全体で検討する。
- ・ 図にかいてある矢印の意味について検討する。
- ・ 図の意味を解釈し、文と関連させて説明する。

さらに、PISA型読解力を養うのであれば、文と図とを関連させて読み取るだけでなく、筆者の意図にも着目させていく必要があると考える。本教材では、図のみに記されている内容と文のみに記されている内容とがある。この点に着目させる。どの箇所が、図のみに記されているか、また、文のみに記されているかを問い、その意図や効果を問うことも必要であろう。

上記の点を考慮し、次の授業に活かしていきたい。